

指針第1号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

| | | | |
|------------------------|----------------|-----|-------------------|
| ①エネルギー起源二酸化炭素の排出量 | | 318 | t-CO ₂ |
| ① （温室効果ガス換算） を除外 | ②非エネルギー起源二酸化炭素 | | t-CO ₂ |
| | ③メタン | | t-CO ₂ |
| | ④一酸化二窒素 | | t-CO ₂ |
| | ⑤ハイドロフルオロカーボン類 | | t-CO ₂ |
| | ⑥パーフルオロカーボン類 | | t-CO ₂ |
| | ⑦六ふつ化硫黄 | | t-CO ₂ |
| | ⑧三ふつ化窒素 | | t-CO ₂ |
| 温室効果ガス総排出量（①～⑧合計） | | 318 | t-CO ₂ |

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

| | |
|------------------|------|
| 温室効果ガスの抑制の目標設定方法 | 総排出量 |
|------------------|------|

| 項目 | 基準年度 令和6年度 排出量（実績） | | 目標年度 目標排出量 | | 令和9年度 目標削減率 | |
|----|-----------------------|-----|-------------------|-----|-------------------|-----|
| | 温室効果ガス 総排出量 | 318 | t-CO ₂ | 309 | t-CO ₂ | 3.0 |

| 項目 | 基準年度 令和6年度 排出量（実績） | | 目標年度 目標排出量 | | 令和9年度 目標削減率 | |
|----|-----------------------|--|-------------------|--|-------------------|--|
| | 原単位当たりの 排出量 | | t-CO ₂ | | t-CO ₂ | |

(2) 目標設定の考え方

令和6年度のCO₂排出量から3年間で3%削減を目指す。電力に関してはCO₂フリーの電力を採用している為、ガス使用量を抑えながらクレジットの採用を検討し2030年度CO₂排出ゼロを目指していく。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

指針第1号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

| 取組の区分 | 具体的な取組の内容 | 取組の目標 |
|-----------------------|---|-------|
| 省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房 | <ul style="list-style-type: none"> ・冷房時のエネルギー（都市ガス・電気）のベストミックスを考慮して運転を行う。（電力使用のピークカット） | |
| 省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房 | <ul style="list-style-type: none"> ・冷房時は、28℃を暖房時には、20℃を目標として各テナントに協力を依頼する。 ・クールビズ、ウォームビズの推奨。 ・ブラインドをこまめに調整し、空調の効率を改善させる。 | |
| エネルギー・省資源の行動の実践・照明 | <ul style="list-style-type: none"> ・常時使っていない部屋の照明を消灯する。 ・昼休み、休憩時の消灯を徹底する。 ・照明を交換する際はLEDを採用する。 | |
| エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器 | <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、コピー機を使わないときはスイッチを切る、スリープモードにするよう徹底する。 ・充電器など常には使用していない機器はコンセントから抜いておく。 | |
| 各テナントへの省エネルギー・省資源への啓発 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示、啓発文書を配布する。 | |
| 環境クレジットの採用検討 | <p>都市ガスで排出されるCO2に関しては0に出来ない事から環境クレジットの導入を検討し±0を目指す</p> | |
| | | |
| | | |
| | | |

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

| 指標 | 目標 (2030年度) |
|------------------------|-------------|
| 使用電気全体に占める 非化石電気の比率 | 100 % |

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

電力は100%非化石エネルギーを採用している為、今後継続とする。

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

Jクレジット等の環境クレジットの導入をR9年までに検討する。

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

廃棄物のリサイクル率を向上させるようごみの分別の啓蒙を行う。

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

省エネ、リサイクルの啓蒙を行い毎月8日は『環境保全の日』であることをビル在館者に知ってもらおう。